

負圧式ワンマンブリーダー：OM-20

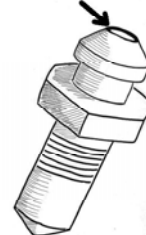
取り扱い上の注意とトラブルシューティング

●フルードが出てこない、出てくる容量が少ない。

1. タンクの中が負圧になっているか？ ホース口を手の甲など皮膚の柔らかい部分に当てて確認。または、バキュームゲージで確認。（空気圧 0.5Mpa で-66kpa 程度）
2. ブリーダープラグの詰まりは無いかな？ サビで孔がふさがっていたり、ブリーダープラグキャップが取れていて、泥などが詰まっている。
3. ホイールシリンダーの孔は詰まっていないか？
4. マスターシリンダーからのパイプラインに、詰まりまたはつぶれはないか？
5. 車両側の配管が長い場合、その抵抗によって出てくる量が少なくなります。また、後輪側と前輪側でも吸引量に差が生じます。トラック、バンなどに於いては、リヤ配管にプロポーションバルブが付いていて、かなりの抵抗となるため、吸引量は少なくなってしまう。
6. 車両のブレーキシステムを確認する。ハイドロブースターなどのブレーキシステムは、独自の作業手順があり、通常のエアー抜き作業ではできないものがあります。

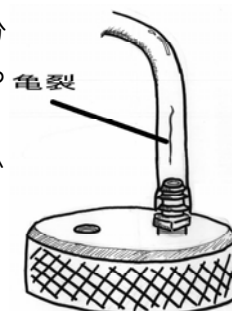


ゴミが詰まっている



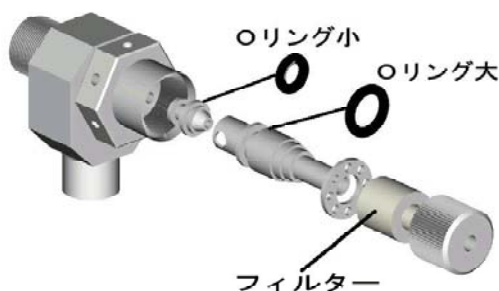
●タンクの中が負圧にならない。

1. バキュームジェネレーターの部品のチェック。バキュームジェネレーターを分解した場合、内部の小部品を紛失したり、Oリングに傷が付いて性能が低下する可能性があります。
2. アルミキャップ(-09)に、ゴムパッキン(-13)が付いているか？ または、ゴムパッキン部にゴミなどが付着していないか、変形、亀裂はないか？
4. タンクの開口部に变形、亀裂はないか？
5. ホースに亀裂が入っていないか？
6. エアーコンプレッサーの圧力は出ているか？ (0.5Mpa ~ 0.7Mpa)



ジェネレーター内部構成

フィルターキャップを外し、エアーを接続すると、一番奥のノズルが勢いよく飛び出し、紛失する事が多い。このノズルが無くなると、ジェネレーターで負圧が発生せず、エアーが直接ホース口から噴射する。



●ジェネレーターフィルター(サイレンサー)部からフルードが吹き出してくる。

このような現象が発生した場合は、タンク内の廃油が満タンか、もしくは作業中にタンクを倒してしまったことが考えられます。この時の処置として、タンク内の廃油を空にし、ジェネレーター内部に入ったフルードを水で洗って(フィルターは外す)ください。ジェネレーターの中は、精密にできていますので、分解時には十分な注意が必要です。また、一度フルードが染みこんでしまったフィルターは、原則的には交換が望ましいが、エアーブロー清掃で油分を取り除いても使用はできます。この場合、若干の性能低下があります。



※タンク内の廃油は、8分目程度になったら1度作業を中止して、タンク内を空にしてから次の作業に入る事がポイント。

●ブレーキフルードは出てくるが、いつまでもエアが抜けきらない。

1. 通常は配管の中のエアが、フルードと一緒に出ているので、時間と共に少なくなり最後には泡(気泡)は消えてフルードのみとなる。
2. ある程度フルードを吸い出しても気泡が消えない時には、ブリーダー補助リングをブリーダー口に押しつけて(この時、当たり面がザラついている場合は効果が出ない。)、ブリーダーネジ部からのエア流入を防げば、フルードの中のエア混入状態が確認できます。
3. ブリーダー補助リングが使用できない場合は、ブリーダーのネジ部にラバーグリスを塗ることで、ここからのエア流入を防ぐ事ができます。



※特に足で踏む加圧式と違い、ホース内が負圧になっていると、小さな気泡が数倍に大きく見える。

※ピストンカップなどが傷んでいる場合、加圧式に耐えられても、逆圧である負圧に対しては、カップからエアを吸ってしまう可能性もある。

●作業時にホース内のエアがなくなる。

エアブリーダーから負圧を用いてエア抜きを行う場合、ゆるめたエアブリーダーのネジ部からエアが混入する現象が発生します。これは車両の配管・付属機器の抵抗が大きいため、抵抗の少ないエアブリーダーのネジ部に、より強力な負圧がかかるためです。この現象は、当社製品に限らず、負圧を用いた「エア抜き作業」では発生します。「エア抜き完了」の見極め方法は下記の通りです。

見極め方法

まず、ブリーダー補助リングが有効に作用しているかチェックします。この補助リングは、ディスクキャリパーへの使用には有効ですが、ホイールシリンダーへの使用には適していません。この場合、ブリーダーネジ部とホイールシリンダーの結合部に、ラバーグリスを多めに盛るということが有効です。

この方法でも混入が認められる場合は、下記の方法で見極めます。

1. ホースを軽くつまんでエアの流れを見る。
2. コックバルブを少し閉じて、負圧を弱めた状態でエアの流れを見る。
3. エアブリーダーを締め、再度ネジを緩めてエアの流れを見る。

これらの方法で、気泡が同じ大きさで規則的に流れている場合は「完了」しています。大きさが不揃いであったり、不規則である場合は、まだ配管内にエアが残っているものと思われます。

上記の方法を用いる場合、負圧の強弱で、混入しているエアの流れ方が変化しますので、瞬時の判断はできません。若干の時間を置いて判断して下さい。また、負圧を用いて「エア抜き」を行う場合、ブレーキの構造上、一回目のブレーキ操作時に軽く踏み切ってしまう場合がありますが、異常ではありません。必ず作業完了後に、数回ブレーキ操作を行い、踏みしるを確認してから車両の移動を行ってください。

●タンク吊り金(フック)

フックを使用しなかった場合、タンクは簡単に転倒してしまいます。ジェネレーターにフルードが入ると、性能が低下し排気部から吹き出します。必ず、フックを使って作業することが必要です。

株式会社ハスコ・サービス部

埼玉県朝霞市栄町3-6-45 TEL 048-461-0101 FAX 048-461-1177

HASCO ホームページ URL <http://hascotools.co.jp>